広島県民文化センター

広島神楽定期公演
無観客公演ライブ配信

12/6 日

10:00~	12:00~	14:00~	16:00~	18:00~
飯室神楽団	穴笠神楽団	鈴張神楽団	下五原神楽団	宮乃木神楽団

10時～　飯室神楽団『大楠公』だいなんこう

飯室神楽団（いむろかぐらだん）プロフィール　～広島市～

当神楽団は土井泉神社を守護神として、昭和57年に飯室神楽同好会として発足しました。山県舞（矢上系六調子）、高田舞（阿須那系八調子）の流派の異なる両舞を伝承しております。神社例大祭はもとより、競演（共演）大会、県内外のイベント等にも出演させて頂く機会に恵まれ、微力ながら花を添えております。伝統ある郷土芸能を古き先人より学び「情感」ある神楽を目指しています。我々の神楽が皆様方の生きたエネルギーとなればと願う所存でございます。若者を後継者として育成に努め、地域に根ざし、人々の心の故郷となるよう団員一同努めてまいります。
何卒、温かいご声援、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

あらすじ

楠木正成は永仁2年(1294年)河内の国(今の大阪府千早赤阪村)で生まれました。
元弘元年(1331年)正成は後醍醐天皇のお召しにより鎌倉幕府打倒に立ち上がり幕府は滅亡します。
しかし、足利尊氏の反乱によって各地で再び戦闘が勃発すると、正成は後醍醐天皇に命じられ、足利尊氏の大軍を迎え討つべく兵庫へ向かいます。
その湊川の戦を正成は、敗北は免れない決死の戦と覚悟して臨みます。
正成は桜井の駅で11歳の息子、正行(まさつら)に郷里に帰るよう申し付けますが、死を覚悟した父の血相を前に正行は「どうかお供を」と哀願します。しかし正成は許さず、生きて帰って後醍醐天皇に忠誠を尽くせと諭します。
やがて正成は湊川で敗戦、弟・正季(まさすえ)は「たとえこの生を終わらせても、人としてこの世に七回生まれ変わって、かの敵を倒したい」と願い、兄弟は刺し違えて生を閉じます。
この演目は桜井の駅での一場面を神楽に取り入れた物語です。

12時～　穴笠神楽団『滝夜叉姫』たきやしゃひめ

穴笠神楽団（あながさかぐらだん）プロフィール　～北広島町～

穴笠神楽団の発足は1984年、三次市穴笠町の地元青年団が町興しの一環として、神楽を始めた事がきっかけです。高宮町の梶矢神楽団に師事し、練習を重ね1987年に地元・天津神社に初めて神楽を奉納し、熱い声援を受け、翌1989年に穴笠青年団から穴笠神楽同好会に名称を変更し、週一回の練習を重ねながら、地元の敬老会などへの出演を続けてきました。
2001年に地元へのお礼として、休校となる穴笠分校での舞が新聞に報じられ、穴笠町外からの加入希望者が少しずつ増え、2004年に穴笠神楽団へと名称を変更しました。
将門の乱、明神山、戸隠山・阿久利姫など穴笠神楽団のオリジナル演目を加え、現在、団員18名で各地の秋祭り、各種イベントや共演大会などに出演させて頂いております。

あらすじ

東の国の新皇を名乗った平将門(たいらのまさかど)は、天慶(てんぎょう)の乱で藤原秀郷(ふじわらのひでさと)・平貞盛(たいらのさだもり)の軍に敗れます。
平将門の娘・五月姫(さつきひめ)は、父の無念を晴らすため、貴舟の社(きふねのやしろ)に「願」をかけ、満願と共に貴舟の神より妖術を授かります。
五月姫は、名を「滝夜叉姫」と改め、父将門の因縁の郷、下総の国・相馬(そうま)の地に立ち戻り、多くの手下を従えて反乱を企てます。
陰陽師・大宅中将光圀(おおやのちゅうじょうみつくに)らは、姫征伐の朝命を奉じ、下総の国へと向かいます。
陰陽の術と邪心の妖術との激しい戦いの末、滝夜叉姫の朝廷に対する復讐は成らず、敗れるという物語です。

14時～　鈴張神楽団『源頼政』みなもとのよりまさ

すずはりかぐらだん
鈴張神楽団プロフィール　～広島市～

鈴張神楽団は昭和26年に地元の方によって結成されました。神楽団結成から、衣装や道具などは全て地元の方々の寄付によって揃え、毎年秋に行われる宮崎神社での秋祭りを中心に、地元に根づいた活動を行っています。
近年になり、若い団員も増え、三度目の世代交代を向かえている今、神楽奉納を通して神楽に息づく先人達の思いを受け継ぎ、後世へと伝えていけるよう、団員一同精進したいと思います。

あらすじ

平安時代、近衛天皇の御代の事、毎夜丑三つ時に大内裏の東三条ヶ森より黒雲が湧き出て、紫宸殿の屋根を包みこみます。時同じくして近衛天皇は得体の知れぬものに怯え、毎夜うめき悩まされていました。
官女「楓姫」は、御門の心を和ませんと内裏を挙げての宴席を計画し、都一番の料理の名人「猪早太」を呼び出します。大鯛をさばき、料理をしていると、化生のものが現れ、早太と格闘します。
そこに楓姫が薙刀片手に助けに駆け付けますが取り逃がしてしまいます。
その様子に一連の事こそ妖の仕業との楓姫の報告を受けた頼長は、源氏嫡流頼光の流れを汲む「兵庫頭源頼政」に怪物退治を命じ、頼政は真夜中の内裏に向かいます。
湧き出た黒雲の中にただならぬ気配を感じた頼政は、一念込めて弓矢を引き絞り、これを打ち抜きます。尋常ならざる叫び声をあげ飛び出したものこそ、「牛の体に猿の頭を持ち、手足は虎にして尾は蛇の姿」という化生「鵺(ぬえ)」でした。
激戦の末頼政はこれを討ち取り、御門の病も見事快癒に向かい、この功績によって頼政は御剣「獅子王」(みつるぎししおう)を下賜される物語です。

ほととぎす　名を雲居に　あぐるかな
弓張り月の　射るに任せて

16時～　下五原神楽団『戻り橋　前編』もどりばし　ぜんぺん

しもいつはらかぐらだん
下五原神楽団プロフィール　～広島市～

当神楽団は、広島市佐伯区湯来町を拠点に活動しています。昭和47年に地元・下地区の神楽が好きな子どもたちによって、『下五原子供神楽団』として結成され、昭和57年頃には、団員の多くが成人となったことから『下五原神楽団』と改名しました。
現在は、安芸高田市の神楽団から指導を受けた、阿須那系高宮八調子を主に演じています。
平成19年からは『下五原子供神楽団』を再び立ち上げ、下五原神楽団指導のもと、練習に励んでいます。現在の主な活動は、地元神社の神楽奉納をはじめ、各地でのイベント発表等、積極的に参加しています。まだまだ未熟ですが、みなさんに喜ばれる神楽を目指し、練習に励んでいます。これからもご支援ご指導をよろしくお願いいたします。

あらすじ

平安時代中期、丹波の国大江山に酒呑童子という悪鬼が多くの手下を従えてたてこもり、都はもとより付近一帯の村里に出没し、悪事の限りを尽くし、手下の茨木童子は老婆に化けて夜な夜な京の都、戻り橋あたりに現れ、庶民を悩ませていました。
源頼光の四天王の一人、渡辺綱が命を受けて成敗に向かいますが、茨木童子の妖術により渡辺綱の命が危うくなります。
しかし、石清水八幡の御神告によって坂田金時が加勢し、格闘の末、茨木童子は左の腕を切り取られ、大江山へと逃げ帰るという大江山三段返しの前編にあたる物語です。

18時～　宮乃木神楽団『紅葉狩』もみじがり

みやのきかぐらだん
宮乃木神楽団プロフィール　～広島市～

平成10年に、広島県広島市安佐北区飯室の野原八幡神社を御祭神として設立しました。阿須那系八調子を源流とする、梶矢神楽団に師事を受けています。
神楽とは何か?を考え、儀式舞、儀礼舞、能舞の流れをふまえ、先人たちの築き上げた心意気を学びたいと考えています。
今後とも芸を磨き、観る人の心に残る神楽を舞い、また足を運んで頂けるよう日々精進していきたいと思います。

あらすじ

平安時代の中頃、武勇の誉れ高い信濃の守・中納言平維茂(たいらのこれもち)は、「信州・戸隠山に棲み、世の中に災いを及ぼしている『鬼女』を退治せよ」との勅命を受けます。
維茂主従は、戸隠の険しい道を登りますが季節は秋、艶やかに色づいた紅葉が陽を受けて燃えさかる炎のように美しい景色の中で、姫に化身した鬼女が「紅葉狩の宴(うたげ)」を開いていました。主従は誘われるまま宴の客となり、酔い伏してしまいます。
麗しき姫は、正体を現し取り食らおうとしますが、その時維茂が日頃より信心する八幡大菩薩の使神竹内ノ神が現れ鬼女を追い払い『神剣』を授けます。正気を取り戻した主従は、鬼女との戦いに挑み、退治するという物語です。

今後の予定

12/19 ±	12:00～	14:00～	16:00～	18:00～
	あおぞら子ども神楽団	上中調子神楽団	松原神楽団	琴庄神楽団